当期剰余金　最高９億３千万円　てん菜共同育苗施設建設へ　ＪＡ中札内村　2021年４月13日

ＪＡ中札内村（山本勝博組合長）の通常総会が10日、中札内農業管理センターで開かれた。2020年度の農業粗生産高は137億4078万円で、前年比3.6％減となった。

昨年に続いて組合員には事前に議案を通達し、20年度の事業報告や21年度の事業計画などを書面で可決している。この日は役員らが集まって議決を確認した。

農産部門では、小麦やビート、大豆、でんぷん原料用ジャガイモは平年並みだったが、小豆やインゲンマメ類は降雨による品質低下によって前年を下回る生産高だった。一方で畜産物に関しては、乳価の高値や、養豚の安定した需要と価格が堅調に推移したことなどから83億1000万円（前年比2.9％増）で、過去最高の生産高だった。当期剰余金は９億3300万円を計上し、過去最高となった。

21年度の事業計画では、産地生産基盤パワーアップ事業として、てん菜共同育苗施設を建設する（事業費２億4291万円）。同施設では、てん菜の苗を育てる際に、紙筒へ種をまく機械の性能を上げ、作業人員の削減や作業の効率化を図る。来年３月からの稼働を予定している。

ＪＡ十勝高島　70年に幕　「地域の絆、継がれる」　合併　解散式　2021年４月17日

ＪＡ十勝池田町との合併で解散した旧ＪＡ十勝高島の解散式が17日午前、町北部地域コミュニティセンターで開かれ、70年の歴史に幕を閉じた。

旧ＪＡ十勝高島は1951年、池田町農協から分割して設立。63年に乳牛1,000頭を突破、70年に乳牛2,000頭突破記念乳牛共進会を開催し、77年に豆類調整工場を建設した。今年３月１日付で、新ＪＡ十勝池田町（鈴木雅博組合長）の誕生により解散した。

式では、旧ＪＡ十勝高島の八木英光組合長が「この地域を開墾した先人たちの努力に感謝と敬意を表する。組合員と築き上げた歴史、伝統、地域の絆は新生農協に受け継がれる」と式辞。地域の農業発展に寄与した歴代組合役員らに感謝状、表彰状を手渡した。

安井美裕町長、有塚利宣十勝地区農協組合長会会長が祝辞。最終期2020年度の決算報告も行われ、次期繰越剰余金3,879万7,457円をＪＡ十勝池田町に承継する。

あいさつする八木組合長

総生産　過去最高83億円　酪農・畜産が4.9％増　ＪＡひろお　2021年４月22日

ＪＡひろお（鯖江雅浩組合長、組合員150人）の通常総会が20日、町農村環境改善センターで開かれた。2020年度の農業総生産額は前年度比3.7％増の83億6,074万円と２年連続で80億円を超え、10年連続で過去最高を更新した。

生産額の内訳は、酪農・畜産が4.9％増の81億202万円、農作物は小豆などの収量が計画を下回り、23.1％減の２億5,872万円だった。生乳生産量は4.9％増の６万2,950トン。和牛の販売額は、新型コロナウイルスの影響で枝肉価格が下落し、4.6％減の３億6,265万円とやや計画を下回った。経常利益は2.88倍の１億890万円、当期剰余金は3.23倍の8,146万円だった。

新年度は、第11次町農業振興計画の初年度として、「高める広尾町農度」をスローガンに農業所得の向上や生産基盤の強化を図るとした。コロナ対策をした上でイベントや研修会などの実施も進める。

総会はコロナ対策で本人出席を控えるよう促し、書面議決106人を含む109人が出席。鯖江組合長は「コロナの影響を受ける中、前年に続いて80億円を超える生産販売額を達成できたのは、組合員一人一人の努力のたまもの。心から感謝したい」と話した。